地域医療連携室

フレンディーだより

Community medicine cooperation room

ご挨拶

院長 新居　隆

４月より高桜英輔先生（現名誉病院長）の後任として病院長に就任いたしました。重責に緊張しております。少しずつ地域の医療連携を勉強させていただいているというのが実情で、まだまだ未熟な駆け出し院長です。皆様からのご指導やご指摘をいただいてさらに地域医療の充実のために貢献したいと考えております。

私の専門は医師不足で今話題の産婦人科ですが、北陸地方を見渡しますと医師不足は産婦人科に限ったことではありません。今、不足を解消する努力も必要ですが、まさにこの機会にこそ、地域の医療者相互の連携の充実強化により医療の人的資源を効率よく活用するべきと思います。そのためには、相互の対話と理解が必要です。すでにオープンカンファレンスが実施されておりますが、そのほかの当院でのカンファレンスや研修会などもできる限りオープンにしていきたいと思っていますので、どうか積極的にご参加ください。また、情報の共有は患者さまにとっても直接役に立つことです。今年３月に扇状地ネットが生まれました。このシステムが広く利用されますことを願っております。

解決するべき課題や開発するべきシステムはまだまだいっぱいあると思いますが、皆様とそして当院職員とともに、地域住民に役立ち、また医療者にもメリットのある新しいしくみを一歩一歩作り出していきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

2006
vol.20

H18.8 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1
E-mail : friendy@med.kurobe.toyama.jp

病院紹介

医療法人 社団平成会 桜井病院

昨年８月に旧院長斉藤博樹先生より新院長小田寛文先生に替わり新体制でスタートいたしました。

当病院は一般病棟・療養病棟・療養型介護医療施設・通所リハビリテーション（ほほえみ）に加えて居宅介護支援事業所を併設するケアミックス型の医療機関です。

昨今の医療・介護を取り巻く環境はめまぐるしく変わりました。昨年は介護保険適用施設において、利用者さんの食事が全額個人負担になり、今年度より医療保険におきましても利用者さんの食事負担が全額になり利用者さんの自己負担が益々増えるのみならず医療機関・介護施設におきましては多床室の減算、加算点数の廃止、人員基準の強化、予防介護の新設等で厳しい状況にさらされています。これらは全て老人医療費の抑制をうたう政策によるものです。

このような状況の中で当病院は地域医療支援病院の黒部市民病院を中心とした地域医療・福祉の一翼して桜井病院の理念に基づき、患者さんの立場にたったやさしさと、おもいやりのある医療を目指し・安全で信頼され安心して退院できる医療を目指し・全員の力で創意工夫し、責任の持てる医療を行い・各医療機関・福祉施設との連携を密にして地域医療・福祉の向上と健康増進に努めます。

外来診療科目

内科・小児科・整形外科・皮膚科

診療時間

月曜日～金曜日●AM9:00～PM6:30
土曜日●AM9:00～PM1:30
休　診●日曜日、国民の祝日、お盆、年末、年始

所在地

〒938-0801
富山県黒部市荻生6675-5
TEL　(0765)54-1800
FAX　(0765)54-4001

扇状地ネット接続開始!!

地域連携室長
中田　明夫

扇状地ネットのトップページ

電子カルテを医師会の先生方の診察室内のパソコンとネットワークで結ぶ

当院の電子カルテも軌道に乗り、次に、当院の電子カルテを医師会の先生方の診察室内のパソコンとネットワークで結ぶ、下新川地域医療連携ネットワーク（扇状地ネット）を試験的に立ち上げました。現在は入善町と黒部市内の２診療所の先生のパソコンとの間で2006年３月末より試験運用を開始しておりますが、この結果をふまえ、今後順次、ネットワークへの参加を希望される先生方への接続を開始する予定です。

今回のネットワークは、画像や検査所見のみでなく、医師や看護師の記録等ほぼすべての電子カルテ内の情報を地域の先生方の診察室内で閲覧していただく事が可能となります。これにより、かかりつけ医の先生方に詳細なデータ、経過についても知っていただくことができるため、患者さまに対してもより質の高い医療を提供することが可能となると考えています。また、当院の検査所見を閲覧していただくことにより検査の重複を防いだり、処方内容を確認していただく事により重複処方や併用禁止薬の投与防止等、医療の安全にも貢献します。なお、副次的効果として、当院医師が診療を行う際にも、地域の先生にも診療内容が閲覧されている事を意識する事により、良い意味での緊張感が生まれ、当院のカルテの質そのものが向上する可能性もあり、地域の先生方、患者さま、そして当院と、このネットワークに関係するすべての人に大きなメリットがあると考えています。

ちなみに、扇状地ネットの名称は、医師会の先生方から応募していただいた名称の候補の中からネットワーク事業部会で決定し、上記の写真はカルテのログイン画面で、ここにも黒部川扇状地の写真を採用しています。今後、このネットワークが黒部川扇状地のように広がっていく事を期待しています。

診療科紹介

放射線科

米田医師　荒井部長　橋本医師

当院の放射線科のスタッフは現在、医師３名（荒井和徳・米田憲二・橋本成弘）、診療放射線技師18名（内３名が女性）、看護師３名、事務４名で業務を行っています。

医師はエコー検査、血管撮影にて検査、治療をし、またCT、MRIの画像診断を行っています。

技師は各モダリティ（一般撮影、透視、血管撮影、CT、MRI、核医学、治療）に配置され、診断価値の高い画像の提供や、患者さまの被曝の低減につとめています。

また、核医学科、放射線治療においては週２回大学より専門の医師に来ていただき、読影、治療をしていただいています。今秋には核医学専門医（清水正司）が赴任予定です。

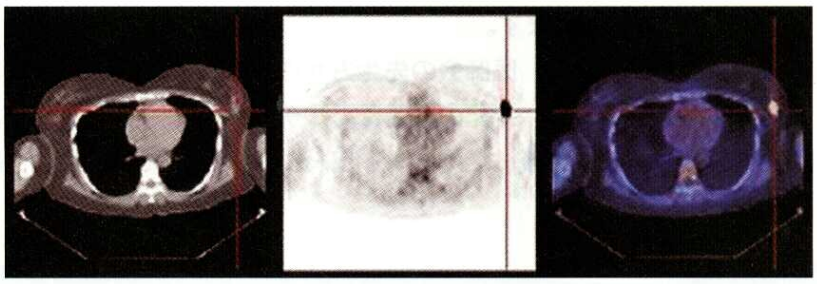
当科では放射線画像診断装置のCT、MRI、乳房撮影装置、デジタルラジオグラフィ装置など更新が行われ、画像診断に貢献していますが、今秋には核医学科にPET/CT装置が導入される予定となっています。

今回はPET/CTの紹介をさせていただきます。

●PET検査とは

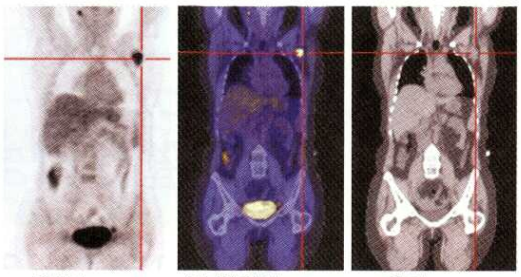
PETとは、陽電子断層撮影（Positron Emission Tomography）の略でペットと呼びます。

がん細胞は正常細胞に比べて増殖が盛んで、糖分を大量に消費する性質があります。この性質を利用して、糖に微量の放射線を放出する物質を組み込んだ薬剤（FDG）を静脈注射するとがんの病巣に集まります。その様子をPETカメラで撮影することで画像化し、がんの場所、広がりを知ることができます。



●PET/CT装置について

PETのみでは解剖学的位置を把握するのが困難でしたが、解剖学的位置を表すことのできるCTと組み合わせることで、がんの位置をより正確に知ることができます。



PET Image　PET/CT Image　CT Image

●PET/CT検査における保険適用範囲

(診療報酬の改正に伴い婦人科疾患が適用される予定です)

現在治療中の場合や過去にがんを患い再発が疑われる場合、右記の病名に該当する方のみPET/CT検査に健康保険が適用されます。健康診断でのPET/CT検診は保険の対象外になります。

てんかん	保険適用の要件を満たす場合
虚血性心疾患	
悪性腫瘍	ほかの検査、画像診断等により確定診断のできない患者さまに関して、保険適用が認められています
脳腫瘍・頭頸部がん・食道がん	
肺がん・膵がん	
乳がん・大腸がん・子宮がん・卵巣がん	
悪性リンパ腫	
悪性黒色腫	
原発不明がん	

●PET/CTの有用性

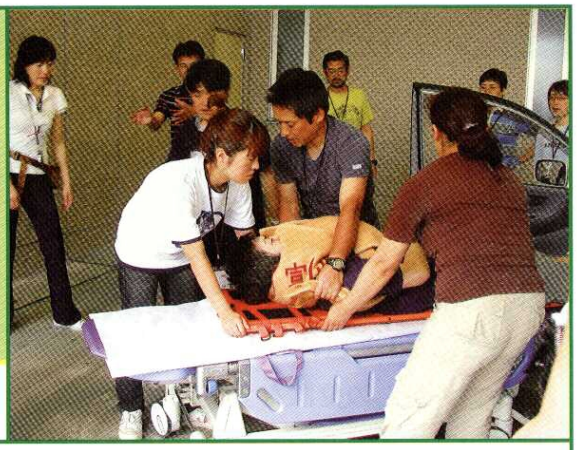
・短時間で一度に全身を検索でき、ほかの検査に比べて大変に効率のよい検査といえます。
・MRI・CT検査では分からなかった良性・悪性の鑑別の参考になります。
・がんの広がりや転移を正確に診断できるので、適切な治療の選択に有用です。
・化学療法などの治療効果判定の参考になります。
・PET/CT検査では思いがけないがんが見つかることがあり、早期発見、治療につながります。症状のない比較的早期に見つかるため多くの方から支持されています。

●PET/CT検査の限界

・顕微鏡レベルのがんや、1cm以下の小さながんは発見できないことがあります。
・FDG薬剤は炎症などがん以外の病気にも集積することがあるため、ほかの検査が必要になることがあります。
・PET/CTは見つけやすいがんと見つけにくいがんがあり、万能ではありません。

トピックス

第1・2回 新川外傷セミナー（JPTECプロバイダーコース）が開催されました



●開催日● 7月1日(土)、2日(日)

去る7月1日・2日と2日間にわたり、新川外傷セミナーが当院にて開催されました。JPTEC（Japan Prehospital Trauma Evaluation & Care）とは、日本救急医学会公認の公式コースであり、病院前外傷初療の標準化を図り防ぎうる死（PTD:Preventable Trauma Death）を撲滅することを目的としています。新川地区の外傷初療に携わる医療従事者（医師・看護師・救急救命士）に広く参加希望者を募ったところ、当院・あさひ総合病院両院長をはじめ定員を上回る応募をいただきました。セミナーは、座学はわずかでほとんどの時間が実技演習に当てられており、皆さん非常に熱心に受講いただきました。会の終了に際し両院長より「楽しかった」とお言葉をいただき、盛況のうちに会を終えることができました。

（小児科　堀川慎二郎 記）

連携室スタッフ

フレンディーだよりについて

2000年6月に黒部市民病院に地域医療連携室（フレンディー）が開設され、その4ヵ月後の2000年10月フレンディーだよりの創刊号が発行されています。以後、年間3から4回の頻度で発行しており、これまでにたくさんの先生方からもご寄稿を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。フレンディーだよりは創刊よりこれまではパソコンに入力した原稿をそのままプリントアウトしただけの、ほとんど手作りに近いものでしたが、今回、第20号より紙面をリニューアルし、印刷も専門業者に委託する事になりました。今後はきれいな紙面でご覧になっていただけるものと思います。

昨今、国の医療に対する施策も目まぐるしく変化してきておりますが、フレンディーの方針は変えずに、地域の先生方と病院をむすぶ架け橋の役割をめざす所存ですので、今後ともフレンディーならびにフレンディーだよりをよろしくお願い申し上げます。

黒部市民病院地域医療連携室 フレンディー　TEL 0765-56-7230　FAX 0765-54-2981